

## 第2回安城市教育振興基本計画策定委員会 議事録

■日 時 平成30年1月24日(水) 午後2時～午後4時

■場 所 教育センター2階 会議室

■出席委員 学校代表(小学校) 鈴木一  
安城市PTA連絡協議会代表 大村剛士  
学校代表(中学校) 榑野宏人  
特別支援教育推進協議会代表 都築智  
青少年健全育成協議会代表 石川昭夫  
愛知教育大学教職大学院教授 佐藤洋一  
公募市民 柘植千恵  
公募市民 市川彩

■欠席委員 安城市PTA連絡協議会母親委員長 飯島富美英

### ■次第

- 1 委員長あいさつ
- 2 議題
  - (1) 計画骨子案について
  - (2) 安城市の教育の現状と課題
- 3 その他

### ■会議要旨(抜粋)

#### 1. 委員長あいさつ

鈴木委員長 本日は大変お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。第1回の策定委員会から5カ月が経った。前回は委員長でありながら、様々な意見を出して事務局を困らせたかもしれない。前回、現状を把握した上で進めていくべきであると申し上げたが、今回はアンケート調査の結果と骨子案について、委員の皆さんに良い知恵を出していただき、できあがったものが10年は現場、保護者、地域に生きるものとなるようにしていきたい。ぜひ建設的なご意見をお願いしたい。

#### 2. 議題

##### (1) 計画骨子案について

事務局 「(1) 計画骨子案について」の説明。

鈴木委員長 骨子案の大きな構成について、何か意見はあるか。

都築委員 流れとしては、現状を理解し、課題をみつけ、それに対してどのような取組を行っていくかという流れでまとめられていたので、違和感なく読めた。

- 市川委員 流れについては、違和感はなかった。
- 石川委員 流れについては、良いと思う。
- 大村副委員長 構成は大丈夫だと思う。
- 柘植委員 流れは大丈夫だと思う。
- 佐藤委員 大丈夫だと思う。
- 鈴木委員長 構成についてはご理解いただけだと思う。第1章に関わることで疑問がある。  
4ページの計画の位置づけに関して、先ほど事務局より説明があったが、『あいちの教育ビジョン 2020』のところから、横に一本直線を入れて、『学校教育の指導方針』に直接矢印を入れるという理解で良いか。
- 事務局 その通りである。
- 鈴木委員長 第1章について何か意見はあるか。
- 榑野委員 1ページの1行目に「少子高齢化、グローバル化」とあるが、少子高齢化は進んでおり、既に少子高齢社会であるので、化という文字を入れる必要はないと思う。グローバル化も同様である。そのため、少子高齢社会、グローバル社会という表現で良いと思う。
- 事務局 ご指摘のように修正したいと思う。
- 都築委員 修正されるということであるが、第2期教育振興基本計画にこの言葉が使われているということはないのか。また、使われているのに安城市の教育振興基本計画で変更して良いのか。
- 榑野委員 第2期教育振興基本計画に使われているのであれば、変更しなくても良い。
- 事務局 一度確認した上で対応する。
- 鈴木委員長 その文言については、事務局にお任せしたいと思う。第3章、第4章、第5章について意見はあるか。
- 市川委員 計画期間が10年間となっているが、10年だと時代が変わってしまうと思う。土台があって、その上にくるものを随時入れ替えていくという考えは分かるが、なぜ10年間としたのか伺いたい。
- 事務局 学習指導要領が10年ということもあるが、教育は短い期間ではなかなか結果が表れにくいということもあるため、10年という長い期間をとっている。ただし、見直しは必要になってくると思うので、毎年、評価・点検をして微調整していきたいと思う。
- 鈴木委員長 微調整は毎年行うのか。
- 事務局 中間期に大きな見直しをさせていただく予定である。
- 鈴木委員長 骨子案についてはご了承ということで良いか。ご意見もないようなので、ご了承いただいたということで、次の議題へ入る。

## (2) 安城市の教育の現状と課題

事務局 「(2) 安城市の教育の現状と課題」の説明。

14 ページから記載のある課題は、学校アンケート、全国学力・学習状況調査、学校評価をもとに抽出した課題となっており、本文中に「学校アンケートによると」や「全国学力・学習状況調査によると」という表現がある。この「によると」という表現は委員の皆さんに理解を深めていただくために記載したもので、計画書本編ではどの調査から抽出された課題であるかは記載しないことにしたいと思っている。

都築委員 第1回の策定委員会の際に安城市教育委員会が推進している、命の教育、学び合い、個別の支援という3本の柱を反映させるということで共通理解を得ていたと思う。今年度の学校現場の状況を考えると、命の教育、学び合い、個別の支援については、既に取り組んでおり、最重要課題となっている。それを踏まえてこの骨子案をみると、学校は学び合いを重視した学習をしているが、子どもたちがそうした学習をしたとは思っていない。それはやらされている感じがあるということだと思う。今後の取組の方向で、「②学び合いを重視した学習を進めます。」とあるが、この文言では十分ではなく、既に質の向上が求められている段階だと思う。また、今後の取組の方向の①から⑦までの順番は優先順に並んでいるのか疑問に思っている。読む側としては①を1番重要なものと理解する可能性があるため、②③を1番前にした方が良いのではないか。社会の状況に対応した教育として『(1) 学び合いやかかわり合いを重視した次世代を担う児童生徒の育成』では、①学校図書館教育、④国際理解教育、⑦キャリア教育となっており、『(2) 豊かな心やたくましい体の育成と健康教育の推進』では、②に道徳教育が入っている。これらは学校の中で特化していく教育になるが、学校としては1つだけ特化して行うことはできない現状がある。このように書かれると苦しい学校がたくさんある。学び合いに関わる②③を1番前にするなど、課題の把握からの流れを考えた方が分かりやすいものになると思う。自己有用感については、子どもであっても日本人として謙譲の美德をもっている。また、目的意識が高い子ども程、自己評価が厳しくなり、自己有用感は低くなる。そのため、自己有用感を上げることを目標とすると、達成できない学校がほとんどになってしまうのではないかと。

ICT 機器が不足していることが課題となっている。現在は一律で40台が各学校に配布されているが、学級数に応じて配布しなければ、成果指標を達成することはできない。そうしたことも視点に含んでほしい。

事務局 今後の取組の方向の順番については、上位計画である『安城市教育大綱』に記載されている順番を踏襲している状況である。

『安城市教育大綱』を策定したのは平成28年2月であるため、時点修正し、

今回の現状と課題からみえてくる重点課題が上位にくるべきという意見はもつともである。順番の変更は可能であるため検討したい。

タブレットの使用についても総合計画の指標を踏襲している。総合計画の指標とは異なる指標で再評価する際は、指標の種類を違うものにするなどの対応があると思うが、事務局としての考えを整理しておく。

鈴木委員長 自己有用感は大にしたいと思う。自己肯定感ではなく、自己有用感ということに価値があると思う。自己評価をさせると難しいかもしれないが、骨子案に記載されていることは、個人的には大にしたいという思いがある。

市川委員 小・中の連携であまりうまくいっておらず、課題があるとしている学校が半数となっている。その具体的な課題にどのような項目があるのかについて、様々なものが挙がってくると思う。それを一つずつ見ていくことが重要であり、50という数字だけでは、判断が難しいので、ぜひ先生方が挙げた具体的な課題を見てみたいと思う。

外部人材の活用は今後重要性を増していくと思うが、その中でコーディネートしていくことが課題となっていくと思う。安城市として教育に対する外部人材のコーディネーター的な存在を設けていき、全体の中で外部人材を上手く活用できる環境ができてきたら良いと思う。

図書資料の活用頻度について、具体的にどのような図書資料を使って、どのような授業を実施したら成功した、反響があったという情報を先生方がどれだけ知っていて、ぜひ実施したいと思える環境があるかどうかで、図書資料の活用頻度も変わってくると思う。先生方の間で情報交換の場があるかどうかでこの割合は変わってくると思うので、そうした場の設定をお願いしたいと思う。

ICT 機器については、ICT 機器を使うこと自体が目的ではなく、課題があつて、その解決に向けて ICT 機器を使うことが目的だと思う。また、ICT 機器を使う際に、専門的な知識も必要になってくるので、ハード面だけでなく、ソフト面も一緒に考えていかなければならないと思う。回数も 10 回やることに意義があるのではなく、1 回でも濃い内容であれば、意義があると思う。タブレットの利点は、持ち運び可能なところだが、小中学校間での貸出が可能になる。もう少しソフトな考えの中で検討してもらえたらと思う。

事務局 図書資料の活用については、この調査が 4 月に行われており、6 月のアンフォーレの開館よりも前になる。そうした状況の中での数字となっている。どういった実践があつて、どのように情報共有されているかについては、学校司書が入ってくるようになり、今年からは学校司書の研修会が月に 1 度開かれている。様々な実践を共有するシステムが構築されており、学校司書間での情報共有はできている。ただし、それが各学校にどれだけ広められているかについては課題があると思う。また、校内での司書、教師、ボランティアの連携が課題であ

ると感じている。

タブレットを使うこと自体が目的ではないというのは、その通りであると思う。教員もそうした思いを共有している。タブレットを使うことは目的ではなく、あくまでも手段である。使用することでより良い、効果的な授業を展開することを考えており、各学校でタブレットの活用の実践は進んでいる。

都築委員 ツールとしての意識をもっと高めていかなければならないというのは、学校現場でも感じている。

鈴木委員長 タブレットについては、教員間のシビアな意見も出している。あくまでも道具として使った上で、有効性の検証をしていこうという共通の認識を安城市の小中学校は持っている。

都築委員 小中学校の連携について、あまりうまくいっていない理由に教員がその重要性を理解していないとある。そのことに申し訳ない気持ちでいる。

鈴木委員長 このアンケートの結果から色々と学校現場も課題を抱えているなということが読み取れる。

石川委員 アンケートではエアコンのことが取り上げられているが、その辺りはどうなっているのか。

柘植委員 最近、夏はより暑く、冬はより寒くなっている。子どもたちも、大人からみると違和感のある服装で登校している。エアコンの設置によって甘やかすということではなく、きちんとした服装で登校できるようになれば良いと思う。

事務局 エアコンについては、全国的にみても、県のレベルでみても設置率が5割に近づいている。本市としても来年度から検討に入るが、本計画に記載されないのは、設置できるか否かを含めた検討が行われていないためである。次期の見直しに先行して設置される可能性もあるが、見直しの中できちんと反映していきたいと思う。

大村副委員長 次世代を担う子どもたちとあるが、誰がどう考えた次世代を担う子どもたちなのかというベースが必要。民間の考える次世代を担う人と公務員の考える次世代を担う人では大きく違う。何を以て次世代を担う子どもたちなのかを考えて、共有していくのか疑問である。これをみていると、問題が起こらないように、国や行政が合わせるようなイメージが強い。最近の子どもは、学校では合わせてもらっていたから、社会でも会社が合わせてくれるだろうという考えでいる感じがある。

対話についても、学校における対話は平和的な対話であり、楽しく論じあうというスタンスであるため、そこからは何も生まれないと思う。嫌なことを言われて、記憶に残るようなことの方が先々に生きると思う。

鈴木委員長 2つ目の議案について、他に何かないか。ご了承いただいたということによりしいか。では、最後に佐藤委員より全体を通して、総括的なご意見をいただき

たいと思う。

佐藤委員 (省略)

### 3. その他

事務局 次回の策定委員会の開催は、当初の予定では7月となっていたが、第4章の具体的な取組について委員の皆様のご意見をいただき、審議を深め、本計画に反映していきたいと考えているため、5月中旬の開催を予定している。また、詳細な日程が決まり次第、ご連絡したいと思う。これで第2回の安城市教育振興基本計画策定委員会を終了する。